

平成 22 年 度

長期研修者研究抄録



鹿児島県総合教育センター

平成22年度 長期研修者一覧

番号	教科 領域等	氏 名 (勤 務 校)	研 究 主 題
1	道 徳	安 藤 忍 (鹿児島市立 紫原小学校)	自己を深く見つめ、自己の生き方についての考えを深める子どもの育成 ー子どもの実態を踏まえ、学習指導過程における指導のねらいに応じた対話活動を通してー
2	算 数	安 庭 裕 太 (南九州市立 松山小学校)	図形領域における数学的な見方や考え方をはぐくむ算数科学習指導 の在り方 ー帰納的、演繹的な考え方を生かしてー
3	国 語	芝 智 史 (薩摩川内市立 永利小学校)	習得した知識・技能を活用する力をはぐくむ国語科指導の在り方 ー文学的な文章の指導における言語活動の工夫を通してー
4	道 徳	池 下 龍 郎 (始良市立 蒲生小学校)	子ども一人一人が自他の生命の大切さを実感できる道徳学習の在り方 ー道徳の時間において、各教科等と関連付けて「生命尊重」の自覚を 深める指導を要としてー
5	生徒指導	出之口 昭子 (始良市立 建昌小学校)	児童一人一人の自己肯定感と自己有用感を高める生徒指導の研究 ー第5学年における学校カウンセリングの考えを生かした体育科や特別活動の授業を通してー
6	特別支援 教 育	新 町 義 樹 (出水市立 米ノ津中学校)	中学校技術・家庭科における特別支援教育の視点を取り入れた学習 指導の在り方 ー技術分野における一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援を目指してー
7	音 楽	坂 本 多 恵 (鹿屋市立 花岡中学校)	音や音楽を知覚し、感受する力を高める音楽科学習指導の在り方 ー「創作」と「鑑賞」の活動を有機的・効果的に関連付けた題材における指導を通してー
8	外 国 語	下 野 哲 生 (鹿屋市立 吾平中学校)	英語で意欲的に自己表現を図る「書くこと」の指導の在り方 ー中・長期的な到達目標に基づく課題設定と指導過程の工夫ー
9	公 民	岩 切 義 弘 (鹿児島県立 鹿児島中央高等学校)	社会的事象を総合的にとらえ主体的に考察しようとする生徒の育成 ー法教育の視点で他の教科・科目などと関連を図る学習指導の工夫ー
10	工 業	吉 元 貢 士 (鹿児島県立 鹿児島工業高等学校)	工業技術への興味・関心をもち、主体的に学ぶ態度を育成する学習 指導の在り方 ー科目「工業技術基礎」におけるコンピュータ制御実習を通してー
11	特別支援 教 育 (自立活動)	村 岡 綾 (鹿児島県立 串木野養護学校)	自立活動の指導内容を生活に生かすための指導の在り方 ー自己コントロール力を高める「動きの学習」を通してー

番号	教科領域等	氏名	勤務校	研究主題	研究内容
1	道徳	安藤忍	鹿児島市立紫原小学校	自己を深く見つめ、自己の生き方についての考えを深める子どもの育成 ー子どもの実態を踏まえ、学習指導過程における指導のねらいに応じた対話活動を通してー	本研究は、子どもが「自己を深く見つめ、自己の生き方についての考えを深める」ための道徳の時間について研究したものである。 具体的には、子どもの実態に応じた対話活動を通して、学習指導過程における指導のねらいを達成させたり、明確な視点から自己の生き方について深く見つめさせたりする指導の工夫を行った。 その結果、対話活動を通して、振り返った自己を意欲的に表現したり、自分の考えを整理したりするとともに、現在の自分を謙虚に見つめ、今後のよりよい生き方について見通しをもとうとする子どもの姿が見られるようになった。
2	算数	安庭裕太	南九州市立松山小学校	図形領域における数学的な見方や考え方をはぐくむ算数科学習指導の在り方 ー帰納的、演繹的な考え方を生かしてー	本研究は、数学的な見方や考え方をはぐくむために、帰納的、演繹的な考え方を生かした学習指導の在り方について研究したものである。 具体的には、帰納的、演繹的な考え方を重視して、既習事項を反復させて考えをつなげる工夫や学習課題を工夫した指導計画を作成した。また、帰納的、演繹的な手法を用いた1単位時間の指導では、発問や学習形態を工夫したり、相互解決の場で考えを伝え合う算数的活動を充実させたりした。 その結果、帰納的、演繹的な考え方を生かした指導の有効性を明らかにすることができ、数学的な見方や考え方がはぐくまれている子どもの姿に近づけることができた。
3	国語	芝智史	薩摩川内市立永利小学校	習得した知識・技能を活用する力をはぐくむ国語科指導の在り方 ー文学的な文章の指導における言語活動の工夫を通してー	本研究は、習得した知識・技能を活用する子どもの姿を設定し、言語活動の工夫を通してその具現化を図る国語科指導の在り方を研究したものである。 具体的には、まず習得させる知識・技能の具体的内容や系統、言語活動の特性を明確にした。そしてそれらを基に、「子どもの実態」「知識・技能」「教材」「単元のねらいに迫る言語活動」の四つの要素の関連のさせ方、活用を図る単元の学習計画の作り方や指導の手だてについて工夫を行い、授業で検証した。 その結果、これらの工夫が、子どもの「習得した知識・技能を活用する力」を育成することに有効であることが分かった。
4	道徳	池下龍郎	始良市立蒲生小学校	子ども一人一人が自他の生命の大切さを実感できる道徳学習の在り方 ー道徳の時間において、各教科等と関連付けて「生命尊重」の自覚を深める指導を要としてー	本研究は、「自分もみんなも生きててよかった。」と自他の生命の大切さを実感できる子どもを育てるために、子どもの実態と発達の段階に応じて、「五つの生命観」から生命の大切さに迫る『生命尊重』道徳学習について研究したものである。 具体的には、各教科等と道徳の時間を密接に関連付けた『生命尊重』道徳学習の指導計画を作成し、道徳の時間において「生命尊重」の自覚を深める指導の充実を中心に検証した。 その結果、自分自身への「誇り」や他者への「感謝」を自覚し、自他共によりよく生きようとする子どもの姿が多く見られるようになった。

番号	教科領域等	氏名	勤務校	研究主題	研究内容
5	生徒指導	出之口昭子	始良市立建昌小学校	児童一人一人の自己肯定感と自己有用感を高める生徒指導の研究 ー第5学年における学校カウンセリングの考えを生かした体育科や特別活動の授業を通してー	本研究は、学校カウンセリングの技法を体育科と特別活動の授業に取り入れ、児童一人一人の自己肯定感と自己有用感を高める生徒指導の在り方について研究したものである。 具体的には、学校カウンセリングとの関連に着目した理論研究を進め、児童の実態調査の結果を踏まえた課題を解決するために、体育科や特別活動においてストレスマネジメント教育やソーシャルスキル教育の視点を取り入れた活動や手だての工夫を行い、授業で検証した。 その結果、体育科の学習や学校行事などの具体的活動を通して、自己理解や他者理解を深めながらストレスの対処法やソーシャルスキルを身に付けることは、自己肯定感と自己有用感を高めることに有効であることが分かった。
6	特別支援教育	新町義樹	出水市立米ノ津中学校	中学校技術・家庭科における特別支援教育の視点を取り入れた学習指導の在り方 ー技術分野における一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援を目指してー	本研究は、通常の学級に在籍する特別な教育的ニーズのある生徒への学習指導の在り方について、研究したものである。 具体的には、特別な教育的ニーズのある生徒の実態を把握・分析し、特性に応じた学習形態やワークシート、教材・教具の工夫、教師のかかわり方など特別支援教育の視点を取り入れた授業を展開することにより、学習内容の理解が深まり、教科への興味・関心を高めることにつながるのではないかと考え、授業実践を通して検証した。 その結果、通常の学級に在籍する特別な教育的ニーズのある生徒への特性に応じた支援・手だてを工夫した指導が、学習への興味・関心を高め、実践的・体験的な学習活動に意欲的な参加を促し、理解を深めることが明らかになった。
7	音楽	坂本多恵	鹿屋市立花岡中学校	音や音楽を知覚し、感受する力を高める音楽科学習指導の在り方 ー「創作」と「鑑賞」の活動を有機的・効果的に関連付けた題材における指導を通してー	本研究は、「音や音楽を知覚し、感受する力」を高めていくための音楽科学習指導の在り方について研究したものである。 まず、聴取の過程を分析することで、音や音楽を知覚し、感受する過程を明確にした。そして、この過程を踏まえて「創作」と「鑑賞」の活動を有機的・効果的に関連付けた題材を開発し、音の意識化を図る指導法の工夫や、イメージや思いを共有させる手だての工夫を行った。 その結果、音や音楽の要素を意識的にとらえようとする姿が見られるようになり、音楽の諸要素や要素同士のかかわりをとらえて、音楽の特質や雰囲気を感じ取り、さらに、自分なりのイメージや思いをもって主体的に音楽活動に取り組むことができるようになりつつある。
8	外国語	下野哲生	鹿屋市立吾平中学校	英語で意欲的に自己表現を図る「書くこと」の指導の在り方 ー中・長期的な到達目標に基づく課題設定と指導過程の工夫ー	本研究は、生徒が身近な題材について5文以上のまとまりのある英文を書けるよう、「書くこと」の指導の在り方について研究したものである。 学級全員が自分の伝えたいことを書いて表現できるよう複数単元を見通した到達目標に基づく指導を試みた。具体的には、適切な題材を設定し、他の言語活動と関連させることで、積み重ねを重視した指導方法の開発及び検証授業を通じた当該指導方法を検証した。 その結果、年間や各学期といった中・長期的な到達目標に基づき、身近な課題設定を行い、学期末の単元において10分間の書く活動における指導過程を工夫することが、段階的にまとまりのある文章を書かせるために効果的であることが明らかになった。

番号	教科領域等	氏名	勤務校	研究主題	研究内容
9	公民	岩切義弘	鹿児島県立鹿児島中央高等学校	社会的事象を総合的にとらえ主体的に考察しようとする生徒の育成 ー法教育の視点で他の教科・科目などと関連を図る学習指導の工夫ー	本研究は、公民科において「社会的事象を総合的にとらえ主体的に考察しようとする生徒」を育成するための指導の在り方について研究したものである。 具体的には、社会生活を営む上で基盤となる法教育の視点で、公民科の内容と小・中学校社会科や他の教科・科目などの内容と関連を図る学習指導の工夫をすることにより、「社会的事象を総合的にとらえ主体的に考察しようとする力」が育成されるのではないかと考え、授業を通して検証した。 その結果、生徒の社会認識が高まり、社会の形成に参画しようとする姿が見られ、法教育の視点で関連を図る指導が、社会的事象を総合的にとらえ主体的に考察しようとする生徒の育成に有効であることが明らかとなった。
10	工業	吉元貢士	鹿児島県立鹿児島工業高等学校	工業技術への興味・関心をもち、主体的に学ぶ態度を育成する学習指導の在り方 ー科目「工業技術基礎」におけるコンピュータ制御実習を通してー	本研究は、生徒の工業技術への興味・関心を高めるために必要な教材の視点や、教材を活用した指導方法について検証するとともに、これまで整理されていなかった専門科目間の関連分野を明確にした指導を実践したものである。 具体的には、実習の科目「工業技術基礎」において、LEDを使った視覚に訴える教材を製作し、それを活用した指導を行い、さらに、科目「情報技術基礎」の関連する内容で、同じ教材を使って理論的な内容の指導を行った。 その結果、生徒のコンピュータ制御技術への興味・関心が高まり、主体的に学ぼうとする姿勢が見られ、実習の科目での体験的な学習から他の科目での理論的な学習へと関連付けた指導が有効であることが明らかになった。
11	特別支援教育（自立活動）	村岡綾	鹿児島県立串木野養護学校	自立活動の指導内容を生活に生かすための指導の在り方 ー自己コントロール力を高める「動きの学習」を通してー	本研究は、自立活動の指導内容を生活に生かすための指導の在り方と自己コントロール力を高める「動きの学習」について研究したものである。 具体的には、自立活動の指導内容を生活に生かすために特に必要な事項を「P-D-C-A」の過程に当てはめて整理した。また、自己コントロール力に課題のある児童生徒の自立活動の指導において活用できる「動きの学習」について明らかにし、その指導内容例を作成した。そして、検証授業を通して、自己コントロール力に課題のある対象児の生活上の課題の解決状況を分析し、検証した。 その結果、自立活動の指導内容を生活に生かすためには、生活上の課題を踏まえて自立活動の指導内容を設定し、その課題に応じた学習を継続的に指導することが有効であることが明らかになった。